

学習会 : 「軍隊を捨てた国、コスタリカの平和路線」

～日本国憲法「改正」がせまるなか～

講師: ^{よつのや} 乗 ^{ひろこ} 浩子さん

(元帝京大学経済学部教授 ラテンアメリカ近現代史・国際関係史専攻)

日時: 2017年3月4日(土)午後1時半から午後4時半まで

場所: 国分寺^{TEL}ホール 国分寺市南町3-20-3 (JR中央線 国分寺駅ビル8階)

「戦争法」が強行採決され、早速「戦争法」に新たに盛り込まれた自衛隊による「駆けつけ警護」が行われています。安倍政権の説明では、PKOなどに参加する自衛隊が、窮地に陥った他国の軍隊やNGOから救援要請を受けた際に、武器を持って助けに行く行為だといいます。しかしその実態は戦争に参加。そんななかで安倍政権は日本国憲法の明文改憲も目論んでおり、憲法の明文上も「自衛隊」を「国防軍」として軍隊にしようとしています。

「攻められたらどうする？」という不安や、「やはり軍隊は必要なんじゃないか」「普通の国は軍隊をもっているんだから日本も普通の国ならなければ」などと、国民の間にも軍隊必要論は少なくありません。そんななか、「軍隊をもたない国」中米コスタリカ共和国があらためて注目を浴びています。わたしたちは、こうしたコスタリカに希望がみえるのではないかと考え、今回の企画をいたしました。

平和憲法「改憲」が具体的に近づいてきそうないま、「再び戦争のできる国」を阻止するためにも、多くの方々のご参加をお待ちします。(参加費: 無料)

【講師より】

中米の小国コスタリカは内戦の翌年、国軍を廃止した(1949年)。その後ラテンアメリカでは珍しい民主的政権交代が定着する。キューバ革命(1959年)後に起きた中米紛争に対して、コスタリカは「非武装中立と対話による和平」を主張。米国レーガン政権の反対にもかかわらず、アリアス大統領は中米4カ国の大統領に呼びかけて、和平合意に達した(87年8月)。この年、彼はノーベル平和を受賞する。

冷戦後、コスタリカは非武装平和外交を展開、国連平和大学を招致し、中国と国交回復し(2007年)、米国や中国と自由貿易協定を締結した。エコツアーなどの観光に力を入れ、クォータ制(割り当て制)で国会議員の4割を女性が占め、女性大統領も実現(2010年)。福祉や初等教育の無償化など、国全体の民主化を進めている。

ところで昨年10月末、メキシコはオーストリアなどとともに、核兵器禁止条約の交渉を国連で始める決議を提案した。しかし日本は、核保有国の米国・ロシアなどと共にこれに反対票を投じた。米国の「核の傘」の下にあるから、というのがその理由である。唯一の被爆国日本こそ核廃絶の先頭に立つべきではないのか?

米国の「核の傘」の下にあるメキシコは、ラテンアメリカを非核地域にするトラテロルコ条約を提案し(1967年)、これを実現したガルシア・ロブレス外相は同年、ノーベル平和賞を受けた。

地球の反対側にあるラテンアメリカにおける平和への動きをご紹介し、日本が歩むべき方向を考えたい。